

令和3年度第3回行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

1 開催日時

令和3年8月5日（木） 午前10時～午前11時35分

2 開催場所

生涯学園都市会館 3階 第2第3中ホール

3 出席者

(1) 委員 5名

市島宗典委員（部会長）、高橋一矢委員、小原幸子委員、菊池房江委員、
小原好美委員（欠席：松田治樹委員）

(2) 説明者（施策主管課及び関係課） 1名

生涯学習課 佐々木正晴課長

(3) 事務局（施策及び事務事業担当課） 3名

秘書政策課企画調整係：伊藤浩課長補佐、澤田宇利主査

財政課経営財務係：松田隆課長補佐

4 議題及び報告事項

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「青少年の社会教育」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

（菊池房江委員）花巻おもしろ探検隊は、花巻を知ろう、好きになろうという事業で学校や学年を超えて小学校3年生から小学校6年生までの児童20人と高校生ボランティア20人が参加しているが、具体的にどの学校が参加しているか。

（佐々木生涯学習課長）小学生は学校の偏りはない。令和元年度までは25人の募集だったが、令和2年度と令和3年度は20人とした。高校生は市内全体に声をかけており、花巻東高校、花北青雲高校、花巻南高校からの参加が多い。学校行事やテスト等の都合もある中で、学校でもボランティア活動を推奨している。参考として、成人式実行委員会の中心となって活動している人の中には、花巻おもしろ探検隊のボランティアを務めた人がいて、好循環ができており、青少年の社会教育につながっている。

（菊池房江委員）少子化の中で高校生と小学生が関わっているいろいろな体験するのも良い経験である。高校生も教えながら自らも学び、いろいろな人と交流する中で出会う喜びや花巻で生きていきたい、花巻で基盤を持って生活したい人たちがもっと増えてくれれば

ばと思う。6回の開催は毎年継続されている事業か。
(佐々木生涯学習課長) 何度か名前が変わったが継続されている。

(小原幸子委員) 2022年から18歳が成人式に参加し成人となるが、コロナの影響でさまざまな行事が中止になっている。この状況で成人式等の諸行事を立ち上げることや、それを盛り上げていくのは難しいと考えるので、少しずつでも進めていっていただきたいと思う。

(佐々木生涯学習課長) 18歳は受験や就職などを控えており、難しいことも考えると、現時点では成年年齢が18歳になっても成人式は20歳を対象とすることで考えている。成人式実行委員会は20歳の委員と19歳の委員で構成している。また、生涯学習事業は全て中止しているわけではなく、大人数での開催は中止している。社会情勢に対応する中で、少人数や地域での活動などできることをやっている。

(高橋一矢委員) 青少年の犯罪について、全国的な問題としてインターネットやスマホ、SNSなど多様化していて、子供達が犯罪に知らないうちに関わってしまう課題がある中で、非行防止等を講じていく必要があるとしているが、市として幅広く具体的な対策を行っているか。

(佐々木生涯学習課長) 学校に所属している子は、学校でも力を入れていると伺っている。市民生活総合相談センターではネット犯罪の啓発を行っている。

(小原好美委員) 成果指標の地域で行われている行事やボランティア活動に青少年がよく参加しているかの問いに対して、コミュニティ会議が企画している行事に頼り切っていてそれ位に参加しているようにしか見えない。スポーツ大会など市での行事に参加しているボランティアもいると思う。もっと市全体の行事に対してボランティアを募集するとか他の課との連携は検討されていないのか。

(佐々木生涯学習課長) 各事業の積み上げとして施策評価を行っている。意識としては成果指標のボランティアはスポーツもあると思うし、令和2年度は少し低くなっているが、全体的に市の行事を見合わせたのが影響していると分析している。スポーツのボランティアの状況がどうかとなると、実際にはボランティアは参加していると思うが、青少年の社会教育の中で示している事務事業では捉えていないとなる。行事が少なくなっているのも、ボランティアが参加している割合が低くなる状況になっていると推測される。

(市島部会長) 達成状況について、新型コロナの状況はわかるが、1つ目の成果指標は平成31年度までの実績値を見ても低下しており、2つ目の成果指標もジグザグだが上がってはいない。この点について、どのように理解し、要因はどのように分析しているか。

(佐々木生涯学習課長) アンケートの取り方も関係していると考えられる。学校現場から

は児童生徒はボランティアに本当は参加していると伺っている。市民アンケートの中で工夫して広く取られるような質問にするなどの検討をしてはどうかとの意見が教育委員会との検証の場でも出た。

(市島部会長) 施策の成果指標はなかなか変えられないと承知しているが、指標と施策の目指す姿の実現に向けた主な取組との関連について、地域の中のボランティア活動に参加させたいという意向があって、それに対する取組として花巻おもしろ探検隊や成人式が結びつかない感じがしてならない。成果と取組をどう結び付けるのか。

(佐々木生涯学習課長) 市全体の活動を網羅して見せられれば良いが、そこまでに至っていないというなかなかできていないのが現状である。

(小原好美委員) 他の施策評価シートは広報などで周知を図ると記載されているが、本件は評価シートの記載がシンプルである。いろいろな活動がされていて、小学生や高校生が関わっているのは説明で分かったが、評価シートだけだと伝わってこない。課題の中に、周知方法を検討するとあるが、具体的な周知方法や参加実績の記載があれば説明を聞かなくても評価シートを見れば市民に伝わると思う。

(小原幸子委員) 花巻市で補導される人はあまりいないと思うが、少年補導委員の街頭補導活動は、298回実施したとあるが、危険な感じの青少年がいた場合、実際に補導するものか。

(佐々木生涯学習課長) 少年補導委員は、PTAや先生、地域の方々に市から委嘱する。補導活動とあるが、実際には本当に補導しなければならない案件は警察が関与する。実際の活動は声掛けと理解している。少年補導委員が実際に補導することはないと認識している。

(市島部会長) 事務事業評価シートの成果指標の非行少年補導数は警察の補導数か。少年補導委員が警察に対してこういう青少年がいると伝えて補導する件数か。

(佐々木生涯学習課長) 少年補導委員が警察に伝えて補導に関与した件数と認識している。

(市島部会長) 少年補導委員の活動は市内全域か。

(佐々木生涯学習課長) 中学校区単位で行っている。PTAや先生などに地域で割りし主に夕方、街頭活動を行っている。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

●「◎前年度評価の振り返り」の「反映状況」について

(小原好美委員) シンプルすぎるというか、情報共有しているということだが反映状況に記載されておらず、開催に至らなかったというだけで記載が終わっている。代替案を示しても良いのではないか。活動が少なくなっているが世代間交流など開催は0にはなっていない、という表現があっても良かった。

●「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

(小原好美委員) 本当はもっと参加している、アンケートの質問の仕方に工夫が必要との話があったが、説明を聞いていたら花巻おもしろ探検隊に高校生ボランティアが参加している人が多いにもかかわらず、アンケートに出て来ないということは、コロナの影響だけではなく、ボランティアに参加していることを市民が知らないのではないか。私も合併前の成人式だったので実行委員会があることを知らなかった。コロナの影響だけじゃなく、その前から指標が減っているので、周知が足りないとか、別の課題や別の要因も考えて、参加しているという事実があるのであれば、もう少し文章に反映しても良いのではないか。

(市島部会長) 指標が適切なのかということ。生涯学習課で測りたいことが測れているかということ。説明ではボランティア参加しているということだが、アンケート結果では下がっているようにしか見えず、ずれている。

(高橋一矢委員) コロナの影響があったが新しいことをしているという開催事例があることを出さないと、全部中止という内容にしか見えない。成果指標で大幅に制限されていると書いているが、去年よりは今年の方がもう少し開催していると思うので、表現が少しよろしくない。

(菊池房江委員) アンケートの取り方がある程度今やっている活動に沿ったものが生きるようなやり方をしていないのではないか。だから成果指標に結びついて来ない。アンケートの取り方に様々な資料とか目で見えるものとか提供しながら、それに対してどうかというアンケートの取り方をしないと、狭いテリトリーの中でだけ感じている所だけで書かれてしまっている。もう少し幅広く見えてこない成果指標に反映されてこないのがもったいないと思う。

(市島部会長) 今の発言と佐々木課長からの説明から考えると、アンケートの問いが行事やボランティア活動に青少年が参加していると思いますか、という問いになっているが、一般市民に青少年が活動に参加している様子が見えていないことを示している。他の課との連携とか、目に見える形での事業が評価シートから全く見えてきていないこともあると思う。先ほど私が取組との結びつきの質問をしたのはそういうことで、問いでは市民が一般的に青少年の活動には実感していないことになってしまう。花巻おもしろ探検隊と成人式だけだと、取組と一致していない。

(小原幸子委員) たくさんいろいろな行事があったと思うが、いずれ新型コロナの影響が1年だけではなくて2年に及んでいることがあまり積極的に評価してくださらなかった理由ではないか。

●「4 施策を構成する事務事業の検証」について

(高橋一矢委員) 記述が青少年活動推進事業のボランティア活動のみに限られている。事務事業評価シートには非核平和の勉強をどのようにやっているかの周知がなく、知らない人が見たらやらなくて良いじゃないかとの話になりかねず、限られた中でやっているだけではよろしくないのではないか。各小中学校やコミュニティに事業の周知を

した方が良い。

●「5 施策の総合的な評価」について

(高橋一矢委員) 世代間交流事業について、各コミュニティ会議などによる情報共有を行い開催手法を模索するとあるが、情報は恐らく持っているので、得た情報を開示して開催手段を提案して検討するとの言い方が良いのではないか。成人式とか他の事業にも言えると思う。

(市島部会長) この項目は、施策の総合的な評価なので、総合的に書いていただきたいと思うが、施策の目指す姿が、地域社会の中で自立した青少年が育っています、ということを目指している。その姿を目指して行っている取組が花巻おもしろ探検隊と成人式と街頭補導活動で、その成果が見られたかは市民アンケートの結果となっている。この結びつきがいまいち結びついていないことが私の感想というか意見。青少年が自立してもらうために、何を生涯学習課で行うかというところが、実際やっているかもしれないが掲載内容からは読み取れない。

(小原好美委員) 施策の目指す姿や目標を途中で見失ってしまう。途中で成果指標がちょっとずれているというところがあって見失ってしまうのかもしれない。

(市島部会長) つながりがスムーズにいかないところがあって、なかなか取組に書きにくいかもしれないが、書きにくいには花巻おもしろ探検隊と成人式だけにしてしまうと、評価シートを見ると生涯学習課はこれなのか、という話になる。実態が見えてこなかったということになるのだろう。

(小原好美委員) 生涯学習事業事例集を提供いただき生涯学習の世代間交流事業について説明をいただいたが、施策の目指す姿の実現に向けた主な取組の中にその内容が入っていないように見えるが、入れるまでもなかったのか、何か意図があったのか。

(菊池房江委員) コロナ禍で集まれないでいた状況だったと思うが、でもこの中に入れておかないといつまでもこの状況が続くわけではないと思うので、目指す姿は各コミュニティが活動していることで、世代間交流も大きな柱になっているとすると、花巻おもしろ探検隊や成人式の他にも各コミュニティの活動も主な取組に入れなければならないと思う。

(市島部会長) コミュニティ会議の活動は書けないと思うが、事例集は生涯学習課で作成しており活動の周知を行っていることは書ける。

(菊池房江委員) 活動内容を周知するために努力しているとか、先程佐々木課長が話していたが、各総合支所やいろいろなところに事例集を設置しているということで、こういう活動をしたものは各コミュニティだけではなく、例えばなはんプラザなど市民が目につくところにたくさん活動している内容が周知されれば、アンケートについても書けるが、高校生や一般の方がいろいろな行事にボランティアで活動している姿が見えてこないとすると、活動している事例集をいろいろなところに設置する努力も必要なのではないか。

(市島部会長) 検証シートは、作成後事務局からお送りするので、意見があれば事務局に

お返しいただき、その内容を含めて最後の全体会時に確認いただく。

(3) その他（第2回委員会時の質問回答について）

(澤田主査) 前回の委員会において後日回答とした2件について説明させていただく。1件目は、事務事業評価シートの奨学金活用人材確保支援事業費について、活動指標「奨学金の貸与者数（新規）」について、平成31年度から令和2年度において計画、実績ともに4倍以上となっているがこれの要因は何かというご質問だった。

これは、事務事業評価の指標は毎年見直すことが可能であり、平成31年度までは、ふるさと保育士、ふるさと奨学生の補助金交付人数を合計したものを指標としていた。しかし、奨学金貸与者に全員に対して事業周知を行っているため、奨学金貸与者数を令和2年の指標とした。このため指標の数値が増加した。これまでのふるさと保育士、ふるさと奨学生の貸与者数についてはシート右側の要因分析にふるさと保育士4名、ふるさと奨学生3名の計7名と記載があるのでご確認いただきたい。

次に、事業説明資料のはなまき夢応援奨学金事業費について、前年度決算額506千円に対し、令和2年度決算額が49千円と大きく減少している。これについて貸与者数、返還者の状況等詳細について教えてほしいとのことだった。

奨学金の貸与の流れについては、貸与者がいた場合、奨学基金から貸与し、同額を繰出金として支出する。また返還者がいた場合は、繰出金は返還金額を差し引いたものとなる。令和2年度においては、貸与者、返還者がともにいなかったため大きく減少したものである。

(以上)